

2018年度

# 第5回東亜漢籍交流国際学術会議

東亜漢籍交流国際学術会議は、立命館大学白川静記念東洋文字文化

研究所・南京大学域外漢籍研究所・高麗大学校漢字漢文研究所で締結された、学術協定に基づく活動の一つとして開催します。

漢籍を媒介とした文化交流の研究は東アジアの伝統文化を理解する

上で重要な位置を占めています。書物を通しての交流によって古来、

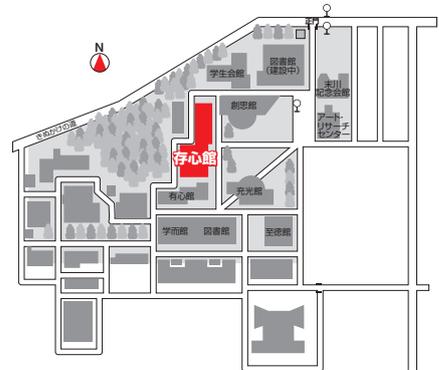
東アジア地域の文化がいかに発展したかを考察するとともに、東アジ

ア社会の漢字文化の学術的探求と解明を図ることを目的としています。



2018  
**12.8** [土] 10:00-17:00

会場 | 立命館衣笠キャンパス  
存心館 2階



公開講演 10:00 から 存心館 2階 201号 ※一般聴講出来ます 入場無料・事前申込不要

藤本幸夫氏 (富山大学 名誉教授) **朝鮮の坊刻本について**

※御講演後、引き続き白川静博士の13回忌に伴う式典を執り行います。

研究発表 13:00 から 存心館 2階 205号 研究者・大学院生・学生 (通訳有り)

- 卞東波 (南京大学) 「唐代詩僧貫休詩歌古注本—海門元曠《禪月大師山居詩略注》考論」
- 吳正嵐 (南京大学) 「朝鮮時代趙斗淳對司馬光易學的接受及其背景」
- 沈慶昊 (高麗大学校) 「朝鮮(李朝)前期における地方木版印刷の発達様相」
- 宋好彬 (啓明大学校) 「『西京稗史抄畧』と『平壤戰記』—清日戦争の記録と漢文の位置」
- 萩原正樹 (立命館大学) 「森槐南の詞學—一詞の起源について—」
- 詹千慧 (立命館大学) 「立命館大學「詞學文庫」庋藏森槐南手識手校本《絕妙好詞箋》研究」

※本国際学術会議は橋本循記念会「研究交流活動助成」の助成金を受けております。

【主催】立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所・南京大学域外漢籍研究所・高麗大学校漢字漢文研究所  
【問合せ先】立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所  
Tel: 075-465-8225 email: ro-toyo@st.ritsumeikan.ac.jp

